

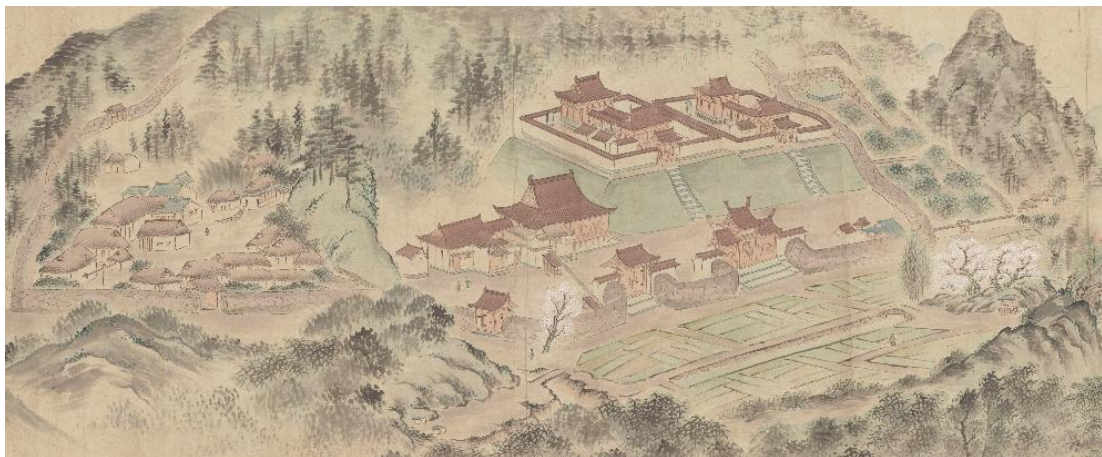
武元君立

武元君立^{くんにゅう} (1770 年～1820 年)は武元花子の次男で登々庵の弟。江戸後期の^{しづたに}閑谷学校教授、農民学者として著名である。農政の「^{かんのうさく}勸農策」、史書の「^{し かん}史鑑」、学者の心得の「^{がつきゅうさんかい}学究三戒」、その他「^{そくしよくろん}足食論」、^{こうぎょろん}「耕漁論」を著した。また、学校案内のための「^{しづたに ずかん き}閑谷図巻記」をつくった。岡山学校(藩校)の授読師、若殿様である^{なるてる}池田^{じこう}齊輝の侍講を務めた。

閑谷学校は^{かんぶん}寛文10年(1670)、岡山藩主池田光政により日本ではじめてとなる「庶民のための学校」として創建された。「旧閑谷学校」として特別史跡に指定され、講堂は国宝に指定されている。長州藩の^{めいりんかん}明倫館、水戸藩の^{こうどうかん}弘道館と並び日本三大藩校と呼ばれている。君立は文化 10 年(1813)、閑谷学校の教授に抜擢された。^{ありよしこうぞう}有吉行蔵とともに^{こうようてい}黄葉亭を建立して歓談の場とした。教師・生徒らの憩いの場として用いられた他に、文人や儒者も訪れており、^{らいさんよう}頼山陽は周辺の景色を絶賛して「^{こうようていき}黄葉亭記」を記している。

備中松山藩の^{やまだほうこく}山田方谷(陽明学者)は、「勸農策」によって松山藩を再生させた。また、そのまま二宮尊徳によって実践されたという。「史鑑」の王政復古の考え方は明治維新を実現させた薩長討幕派によって実現されたと云われている。

(川端紅葉著 2026・9・15)



「閑谷学図」(岡山県立博物館提供 重要文化財)